

縮小ニッポンにおける学校の撤退戦

新発田北蒲・紫雲寺小学校

1 学校も撤退戦

未来は不透明ではなく、世界が未だ経験したことのない人口減少と超高齢化ニッポンになることは、明確である。減る一方の若年人口の取り合いに気を取られず、先駆的な地方自治体のように、学校も上手な撤退戦をしながら、少しでも拡大路線を打ち出すたたかさが必要と考える。ここに、家庭・地域との連携を重視する意義がある。

2 学校以外の視点を生かす

既存の「学校運営会議」と「自治会長・主任児童委員・民生委員との懇談会」を活用し、名称を「これからの地域（ふるさと）プロジェクト」として立ち上げた。このプロジェクトから、「人と協力して何かを解決すること」「人の気持ちを考えて行動すること」に注力せよとの答申を受けた。これを具現するには、子どもがふるさとの良さを感じ取ること、地域に学び地域に貢献する教育活動の創造と充実、さらに、地域の良さを売り込む押しの強さも重要である。

3 具体的な姿

年間を通じ、様々な教育活動でボランティア活動を受けている。その場面は、算数・音楽・家庭科といった教科領域の学習、校外学習、学校行事、課外活動に広がっている。

例えば、遠足はボランティアによる支援なしには成り立たなくなっている。校区を巡る年、合併した旧新発田市の施設・史跡を巡る年、海辺にある記念公園でバーベキューをする年と、縦割り集団でのピアサポートの視点を入れ、六年間で体験を二巡するようにデザインし、地域の良さを再発見できるようにしている。

また、約三十年前に始まった太鼓活動「干拓太鼓」と「干拓劇」で、児童は地域の歴史と伝統を学んでいる。それまで先輩から後輩への継承を行って来たところに、昨年度、地域ボランティアからの指導を受けることができた。土曜参観日で参加する、地区芸能祭演奏が功を奏している。

さらに、地域の企業・商店等と連携して、児童がコラボ商品の開発に取り組んでいる。年度末に向け、児童による広告活動や、市の地域協働推進事業を活用したサテライト・サイネージを実施する。

4 知恵を絞る

学校支援地域本部事業の開設を待つだけでは、家庭・地域からの支援・連携は望めない。積極的に打って出ることが必要である。未曾有の「教員」獲得困難状況と同じように、予算はもらって当たり前ではなくなる。校長が知恵を絞る時である。